

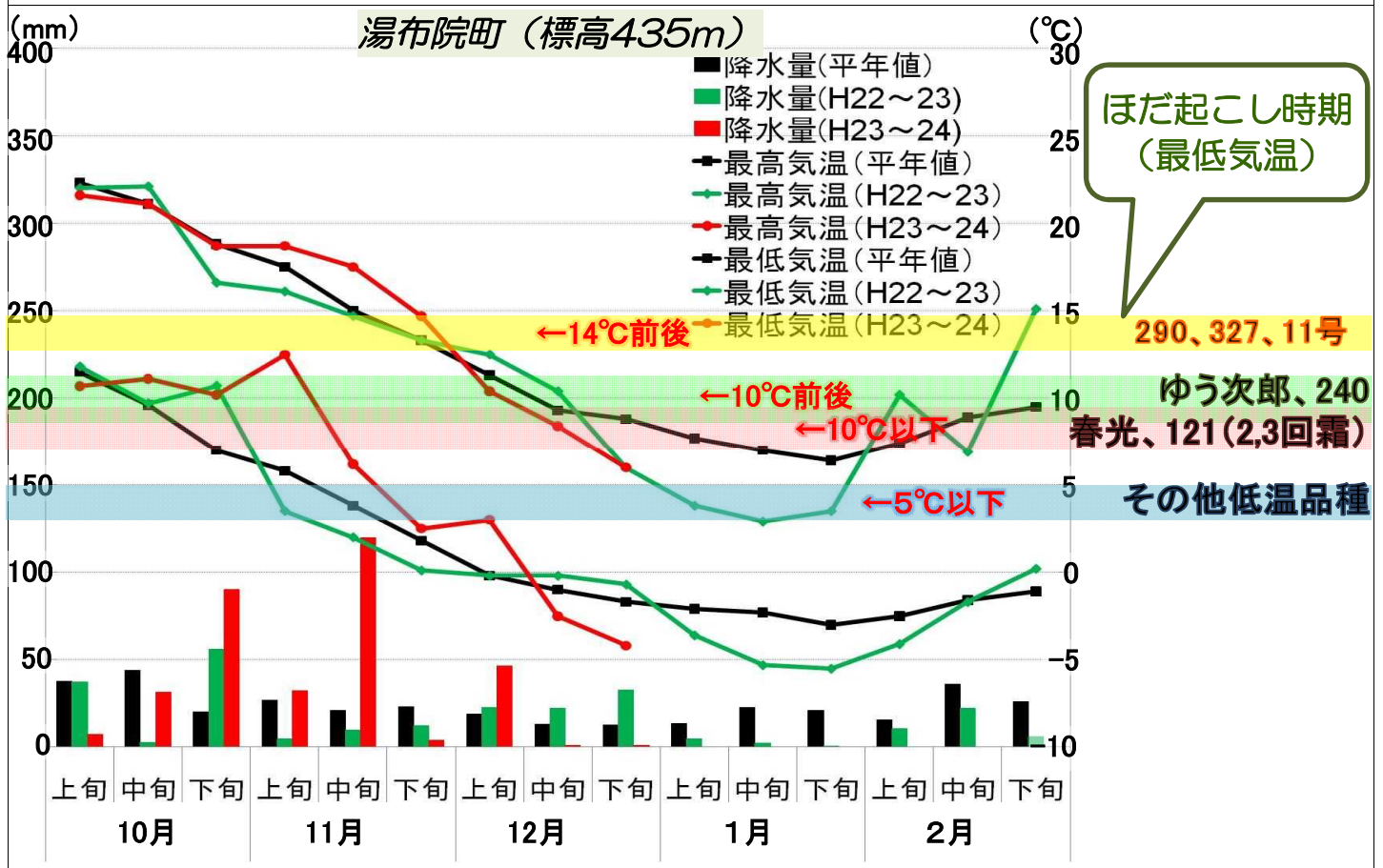
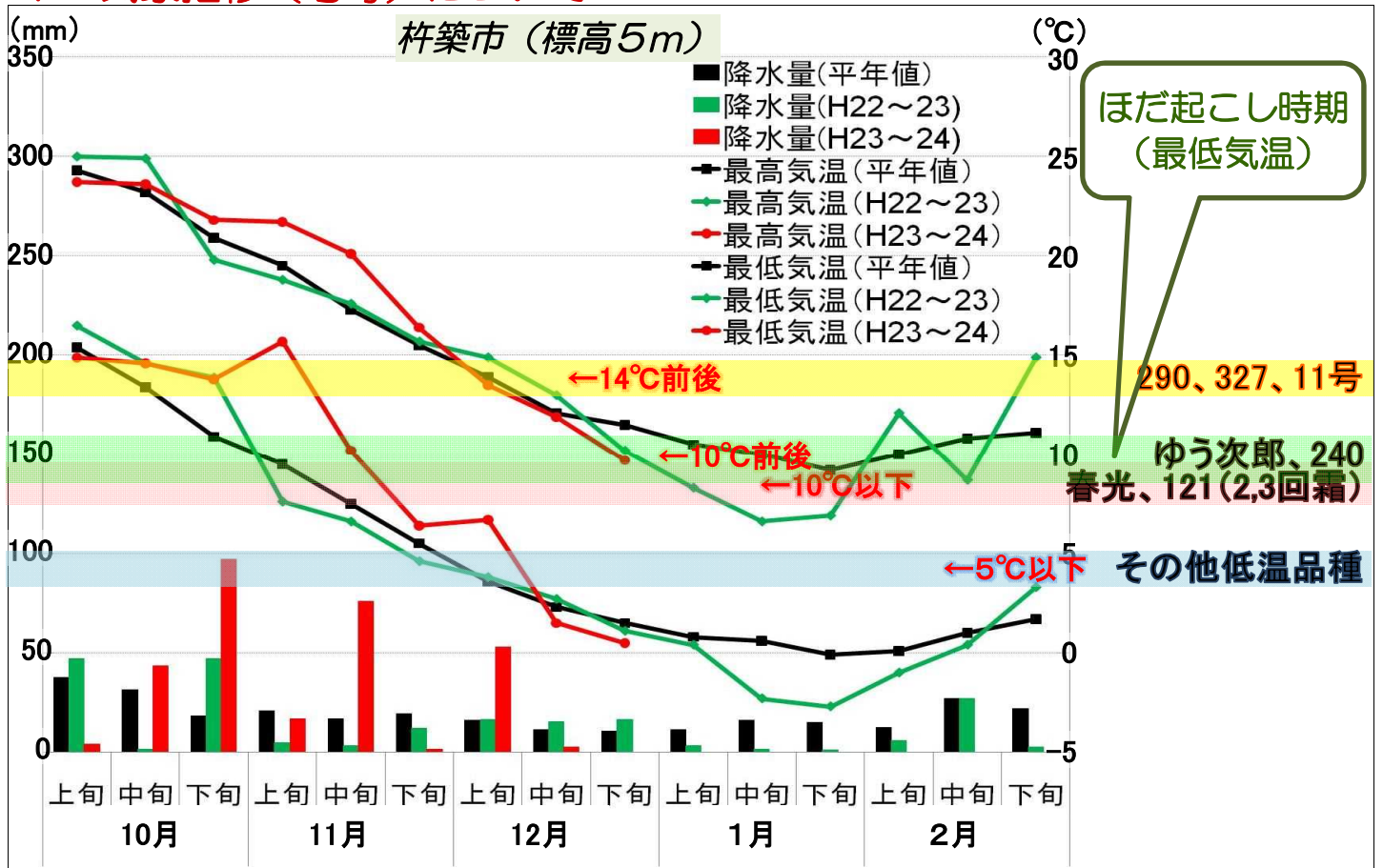


【東部振興局管内】 椎茸普及指導情報 第34号

H23.12.26
(H24.1.5改)

今年の秋子発生は9月下旬より始まり、その後、暖かい日が続きさらに雨量も多いなど不安定でしたが、やっと11月中旬以降、しっかり温度が下がってきました。今から寒子の時期に入りますので、良品採取に向けた取り組みをお願いします。

1 気象推移(旬毎)について



2 これからの作業について

(1) 寒子づくり

① 防風対策(+シカ対策)の徹底

芽切ったシイタケを寒風により枯死させないため、ほだ場の周囲をダイオネット等で覆いましょう。また、あわせてシカ対策を行いましょう。



事例1: 杵築市S氏 (下に丸太、上に竹)



事例2: 安岐町O氏 (下に丸太、上にロープ)



事例3: 武蔵町T氏 (下にネット)



事例4: 国見町Y氏 (下にネット)

- ・シカは一度しいたけの味を覚えると何度も食べにくるようです。
- ・エサがない寒子の時期は要注意です。
- ・特に下側から入る傾向が強いようですので、下側の対策が重要です。

② 袋かけ、ビニール被覆等で良品づくり

芽切ったシイタケの枯死を防ぎ、生長を促進するため、「袋」や「ほだ木コート、ビニール」かけを行い、保温・保湿を図りましょう。

《袋かけ・ビニール等被覆のポイント》

- ★ 効果は… ・ひとまわり大きなシイタケが収穫でき、乾燥仕上がり軽く、色がよい
 - ・芽が乾燥で枯死するのを防ぐ
- ★ 時期は… ・寒い時期ほど効果は大きい
- ★ 袋かけの方法



事例5: 武蔵町N氏
H23. 12. 21撮影

- 全体を覆う (厳寒期、風通しが良く、温度がとれないほだ場)
- 傘の上のみを覆う (雨の降る前、傘に亀裂があるもの、温度がとれるほだ場)

★ ビニール被覆の方法



- ほだ木全体を覆うが、天気が良く気温の高い日中はビニールを開け、温度上昇に伴う品質低下を防ぐ。
- 採取後は必ずビニールを外し、次の芽切りのためにほだ木に水分を補給しましょう。

★ 袋かけ、ビニール被覆の共通項目

採取前には「袋」や「ビニール」を外し、1～2日程度外気にあて採取しましょう。

③ 生長散水の実施

乾燥した日が続き、発芽したシイタケの生長が後れているときは、日中の気温が10℃以上の暖かい時間に短時間の生長散水(10～15分程度)を行いましょ。

(2) 春子に向けて



低温性品種の古ほだは「発生が良くない」という声を良く聞きます。中低温性品種に比べ、抑制(30日程度)と刺激(低温と震動)が必要で、また、古ほだは新ほだに比べ水分が減少しています。

発生の悪い方は、倒木等(震動刺激と水分補給)により芽切りを促すことをおすすめします。

3 ほだ木づくり

(1) 原木の玉切り

伐採後40～60日が経過し、直射日光が当たってない原木元口(切り口)のひび割れが直径の1/2～2/3程度入った頃が目安です。

(2) 植 菌

玉切りされた原木に種駒を接種し、種駒内部のシイタケ菌糸を原木に活着・蔓延させる重要な作業です。接種は2～3月の低温期(5℃位から伸長を開始)に行い、有害菌が旺盛な生長を開始する前に活着・初期伸長をさせておくのが理想です。

※ 2月上旬から4月上旬(梅の開花時期から桜の開花時期)までが理想です。

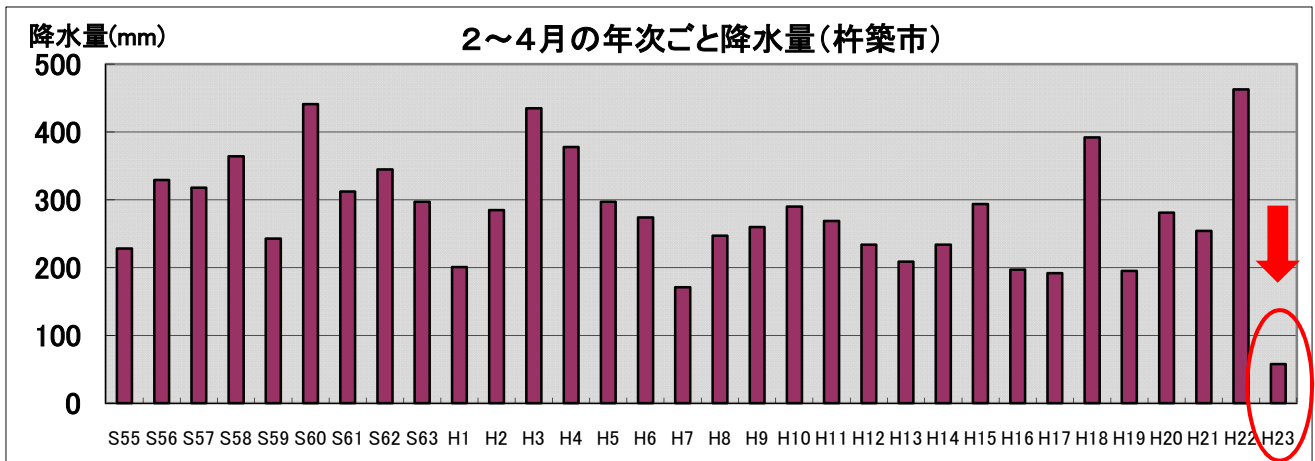
(3) 仮伏せ

接種後のほだ木への風や直射日光をさえぎり、種菌の乾燥を防ぐとともに、ほだ木に不足した水分を戻し、**確実に接種した種菌が活着・伸長するよう保湿・保温管理を行う**のが仮伏せです。

仮伏せの重要性

木片駒の含水率は50～60%であり、40%前後で安定して伸長し、20%以下になると外部からの水分補給がなければ伸長できません。原木に接種された木片駒は雨がなければ4～5日後(平均気温が8～10℃時)には、30%以下になり菌糸の伸長が弱くなります。→**接種した種駒の水分保持が活着・伸長に重要なのです。**

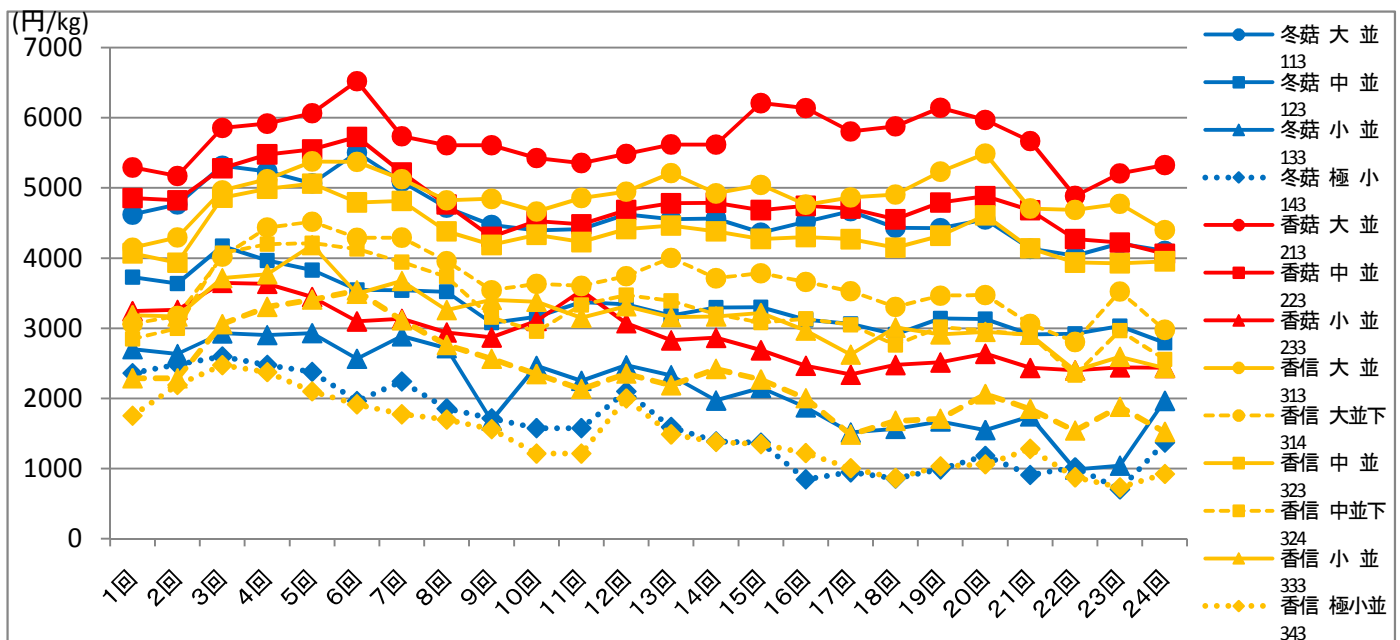
下の表をご覧ください。



このグラフは昭和55年からの植菌時期(2~4月)の降水量の状況です。赤丸の平成23年は記録的な少雨であり、たまたま5月以降に降水量が確保され菌糸の活着・伸長状況が持ち直した年でした。この状況を常に意識して、仮伏せ作業に取り組んで下さい。

4 シイタケ採取 (単価向上)

このグラフは平成23年の椎茸農協における品柄別の市況です。



(1) 各品柄の並品以上の採取率を上げ、販売単価を向上しましょう

(2) 単価と品質の向上は適期採取が決め手です

- ★ 日より子で採取する… 乾燥歩留まりがよく、乾燥時の変形も少ないです。
- ★ 品柄に合わせて適期採取を！
- ★ 品種特性に応じてこまめに採取を！

放射能問題などにより、全国的に乾しいたけ生産量が落ち込むのではと言われており、それに伴い外国産の輸入増が心配されます。皆さん、植菌量の維持・増大に向けた取組みをよろしくお願いします。

運搬・チェーンソー作業など、危険な作業が続きます。作業時には必ずヘルメットを着用し、安全作業をお願いします。

大分県東部振興局 農山漁村振興部 林業・木材・椎茸班
担当：坂本（国東市エリア） 伊藤（別府市杵築市日出町エリア）